

[◀渡邊醫院トップページに戻る](#)

臨床余祿 目次

2025

日付	タイトル
12月 14日	今年読んだ本から
11月 30日	精神病の真実を語ること
2日	AI時代における臨床スキル
10月 19日	熊ども、ゆるせよ
5日	はちみつ文庫
9月 21日	ぼくには今しかない
8月 31日	戦争をやめよ
10日	『私はがんで死にたい』（小野寺時夫）を読んで
7月 27日	Farewell Gift
13日	社会的処方ふたたび
6月 29日	われら大部族
15日	われわれは試されている
5月 25日	Long Goodbye
11日	認知症とレカネマブ
4月 27日	ネガティブケイパビリティ③
20日	ネガティブケイパビリティ②
6日	ネガティブケイパビリティ：キーツ
3月 23日	もう花見は終わりましたか
2月 23日	リタイアの理由
2日	川は海になる
1月 19日	目撃証人 eye witness
1日	珠洲焼きのコーヒーカップ

2024

日付	タイトル
12月 8日	レカネマブをめぐる分裂
11月 24日	Dementia related stigma is still pervasive
10日	第9章文化を変える
10月 20日	第8章Requirements of caregiver
6日	第7章The caring organization
9月 22日	第6章Improving care: the next step forward
8日	第5章The experience of dementia:認知症を生きる
8月 25日	第4章Personhood maintained

	11日	第3章How personhood is undermined
7月	28日	第2章Dementia as a psychiatric category
	14日	トムキットウッドを読む：第1章On being a person
6月	30日	トムキットウッドを読む
	24日	認知症パラダイムシフトとは
5月	26日	「排除ベンチ」だって
	5日	黄金週間と読書
4月	14日	孤独死だが孤独ではなかった
	24日	さいごの笑顔 おきなぐさでの看取り：Nさん
	7日	脳の健康度とは
2月	4日	さいごのナビゲーション (prognostic awareness)
1月	20日	ある日の看取り
	9日	読書でふりかえる1年

2023

日付	タイトル
12月 10日	迷うということ
11月 26日	パワハラと対話
12日	ほんとうに必要なくすり
10月 22日	AIは患者に共感できるか
8日	認知症と共に生きるために
9月 21日	世界アルツハイマーデイ
3日	臨床余録10周年
8月 23日	相手をたたえて自分たちも終わろう
6日	看取りを考える
7月 30日	リフィー川のほとりで
9日	チャットGPTと精神科看護
6月 25日	アンシュタルト
11日	取り戻すべき尊厳
5月 21日	能力主義のもたらす死
7日	忘れてはならない人
4月 16日	かかりつけ医はなぜ大切なのか
2日	物忘れをユーモアのシナリオで生き直す
3月 28日	桜の木の下で
6日	医療破壊としての戦争
2月 24日	新しい戦前？
6日	ACP-瞬間の対話
1月 27日	死ぬまで走り続ける
8日	新しい年のはじめに

2022

日付	タイトル
12月 25日	1年をふりかえる
4日	己が歩みをますぐにゆかむ
11月 20日	まったくわかりません
6日	ACPの何が問題なのか
10月 23日	わたしはジャガイモではない
8日	ウィズ認知症の時代
9月 25日	医者・患者関係の形を変える
11日	コーヒーとわたぼうし
8月 28日	夏休みと読書
14日	さらば、近藤誠よ
7月 17日	「死にたい」は「生きたい」
3日	アルスモリエンディ：往生術
6月 12日	つゆいり
5月 22日	かかりつけ医再考
8日	花曇りの黄金週間
4月 17日	ほんとうのロシア
10日	新緑が萌える丘
3月 27日	ふりかえる、前に進むために
2日	パパはキエフに残るんだ
2月 20日	こころを遣（つか）うということ
6日	励ましてはいけない認知症
1月 16日	忘れられない言葉
2日	去年をふりかえるとき

2021

日付	タイトル
12月 12日	我々はみな難民
5日	診断よりむつかしいのは
11月 28日	希望のエンディングノート
7日	今を生きる（8）
10月 31日	今を生きる（7）
24日	今を生きる（6）
10日	今を生きる（5）
9月 26日	今を生きる（4）
19日	今を生きる（3）
5日	今を生きる（2）
1日	今を生きる（1）

8月 29日	死の日記
8日	ローテクが輝くとき
1日	Nothing about me without me
7月 11日	何のためのワクチン
6月 20日	100歳まで公園の掃除
6日	出前接種
5月 23日	コロナ狂詩曲（ラプソディー）
9日	脳のマッサージ
2日	ハイテク医療と福沢諭吉
4月 25日	コミュニケーション能力とは
11日	看取りの意味を考える
3月 28日	わたしは籠の中の鳥
21日	驚きすぎて涙がでません
14日	ひとりひとり
2月 21日	社会的処方：医師患者関係を変える
14日	ほんとうの手紙
8日	こどもたちへコロナ時代の免疫力とはー（渡辺久子、投稿）
1月 31日	世界で最も多く処方されている薬は
17日	アランの方法
10日	新型のコロナとともに年が明け

2020

日付	タイトル
12月 27日	ヘルス・ストーリー：2020
13日	さいごまで自分の居場所
6日	目標志向型ケア
11月 29日	罪悪感を感じなくてよい部屋
22日	コロナは老人の友？
15日	うるわしからず
10月 25日	言葉ではいえないです
18日	投影的同一視
11日	老いを敬うとは？
4日	110歳のあおげばとうとし
9月 20日	ドリーミングフォーワード
13日	白い病
6日	肩の荷がおりるということ
8月 30日	真夏のプロフェッショナリズム
23日	You matter because you are you
16日	したいこと、したくないこと、そこからの出発

9日	ALSの患者の声を聴くこと
2日	ALSと安楽死（2）
7月 26日	ALSと安楽死
19日	在宅医療年間報告
5日	コロナ世代？
6月 21日	コロナ時代のコンパッション
14日	コロナとハリネズミ
7日	シアトル最前線
5月 31日	たった一日の重さ
24日	恐怖というウイルス
17日	新型コロナとかかりつけ医
10日	これが最悪？
4月 19日	小さなこと
12日	コロナパンデミックと緩和ケア
5日	毎日が最後の晚餐
3月 29日	はじめがあるからにはおわりがある
22日	ざぶとん
15日	コロナであってもコロナでなくても
1日	新型コロナとペスト
2月 23日	看取り搬送を減らすために
16日	老いることは乳幼児に帰ること？
9日	グリーフケアとは
2日	選択はさいごまでオープン
1月 26日	介護、差別、偏見
19日	断食考
12日	余分なものをはぎとられ
5日	棒のごときもの

2019

日付	タイトル
12月 22日	認知症「予防」の現実
15日	人生の最終段階の援助者のために
8日	ひきこもり再考
1日	人生会議を考える
11月 24日	ゼロプロセス
17日	電子カルテ時代の共感
10日	スピリチュアル
3日	認知症と笑い
10月 27日	認知症が社会を変える

	20日	105歳の育児論
	13日	難しい患者から学ぶ
	6日	「健脳ドック」？
9月	29日	まいまいつぶり
	22日	認知症：新しい希望の共和国に向かって
	15日	エンディング
	8日	医学における魂とは何か
	1日	おもてとうら
8月	25日	戦争と医療
	18日	普段通りであることの安らぎ
	11日	はちがつ
	4日	認知症早期発見モデル？
7月	28日	第六志望
	21日	この町内は僕がつくったの
	14日	飛び恥？
	7日	ひきこもれ
6月	30日	Touch
	23日	社会を処方する
	16日	片腕をうしなう（木村光子さん）
	9日	インスピア
	2日	ある安楽死
5月	26日	青あらし映せる水に手をつきて
	19日	診察を解剖する
	12日	死ぬまでリハビリ？
	5日	精神科ははじっこではない
4月	28日	悲しみを知る医者
	21日	恥のものがたり
	14日	介護をうたう意味
	7日	「おきなぐさ」のそれから
3月	31日	否認の思想
	24日	改めてかかりつけ医とは
	17日	選択とシナリオ
	10日	橋
	3日	試練とともに
2月	24日	よりよい死のための言葉を
	17日	食事介助の前に
	10日	指差し
	3日	〈先生転移〉を考える
1月	27日	犬も歩けば

20日	にぎわしき孤独
13日	私は悪いひと？
6日	スニーカーの用意を

2018

日付	タイトル
12月 30日	culmination (小堀鷗一郎)
16日	何のための担当者会議
9日	認知症フレンドリー社会とは
2日	ばあばの家に招かれて
11月 25日	根拠に基づく医学 (EBM) を越えて
18日	ありのままの子どもたち
11日	往診代行システムを巡って一看取りについて考える
4日	これからのこと
10月 14日	石が輝いてみえるとき
7日	みなと認知症セミナーをふりかえる
9月 30日	犬の名は
23日	臨床におけるフレキシビリティとは何か
16日	医者にとって死生学とは何か
9日	お餅のように扱うな
2日	夏休みらしくない夏休み
8月 26日	7年間ありがとう
19日	p53と私
12日	燃えつきに抗して
5日	ライフライン
7月 29日	そのひとを知るということ
22日	少しずつ身軽に
15日	ひとは負けるために作られてはいない
8日	記憶の継承
1日	百歳パワーとは何か
6月 24日	ほんとうに必要なもの
17日	認知症とともに善く生きるには
10日	病む旅人をもてなすところ
3日	君たちに明日はあるか
5月 27日	さわやかな野性
20日	あなたは眼が美しいから美しい
6日	生死を詠う (しょうじをうたう)
4月 22日	ノブレス・オブリージュ
15日	哲学者と医者と死・SEAMUS O'MAHONY 『The way we die now』

8日	計画された偶然
1日	伝達の中味
3月 25日	彼岸の雪
18日	医者が認知症になるとき
11日	7年目の3・11—海の沈黙
4日	認知症の治療とは
2月 25日	グレンツゲビート
18日	ケアニン
11日	老年的超越
4日	医者が考える高齢者介護
1月 28日	雪の夜に思うこと
21日	賢く選ぶ
14日	後悔のちから
7日	ケアのちから

2017

日付	タイトル
12月 31日	ワヒード
24日	ここはどこにあるか
17日	お礼を言えなかつたんだよ、先生
10日	行かない理由
3日	介護は出会い
11月 26日	シナリオプランニング
19日	外来診療の意味
12日	秋の深まる夕暮れには（石牟礼道子）
5日	つらいんです
10月 29日	介護をうたう
22日	一通の紹介状
15日	往診は医療の原点
8日	本多先生の遺したもの（在宅医療と介護に関連して）
1日	在宅医療と介護（小冊子用まとめ）
9月 24日	わからないこと
17日	SpecialtyがGeneralityを支える
10日	妻を亡くした男たち
3日	晩年を準備する
8月 27日	なつやすみ 2017
20日	わたしは人間である
13日	ユニット731
6日	これでいいのだろうか

7月	30日	介護を考えなおす
	23日	しっかり生きなさい
	16日	きっと深い人生を
	9日	クレド
	2日	Presence
6月	25日	Who cares for the carer?
	18日	聴くということ
	11日	男たちーその2（ビールの海でおぼれそうな男）
	4日	母を見取ったので
5月	28日	男たちーその1（300年生きてきた男）
	21日	不確かさに耐える
	14日	じぶんの時間は誰のもの
	7日	終末期：僕にとってのガイドライン
4月	30日	認知症とQOL
	23日	内省的プラクティスふたたび
	16日	こころの救急を診るということ
	9日	ありがとう レクイエム
	2日	鳥の目でながめてみよう
3月	26日	原点はかがやく
	19日	あたらしい父
	12日	うれしくない
	5日	人々のために働く責任
2月	26日	小さな紙切れ
	19日	かいごのうちがわ
	12日	Deep north
	5日	なにがほんとう
1月	29日	Smart medical home
	22日	悲しい納得
	15日	おわりにむけて
	8日	ながいトンネルのおわり
	1日	1年を反芻する

2016

日付	タイトル
12月 25日	受け入れがたい現実
18日	てんばつだなんて
11日	聞いているのに聴いていない
4日	ニューノーマル
11月 27日	入所というdisplacement（強制移動）

	20日	事の前に考えておくこと
	13日	自律と安全
	6日	質の高い医療だって？
10月	30日	拒否される介護とは
	23日	なぜ連携できないのか
	16日	ケアとは人間への旅
	9日	せめてもうすこし人間的に
	2日	いのちの糸
9月	25日	在宅医の条件
	18日	共感とは
	11日	ふつうってすごい
	4日	退屈しないこと
8月	28日	わたしのまえとうしろ
	21日	欠落が欠落している
	14日	なぜ、あなたの
	7日	ほかへ行ったら何もなくなっちゃう
7月	31日	フランクルとの出会い
	24日	それほどのじかん
	17日	わたぼうしカフェの1年
	10日	メディカルエッセイ集『落葉の思想』
	3日	介護は牢獄？
6月	26日	本多先生が遺したもの（3）
	19日	いまできること
	12日	安楽とやすらぎ
	5日	本多先生が遺したもの（2）
5月	29日	かかりつけ医はどこに
	22日	本多先生の水脈
	15日	本多先生が遺したもの（1）
	8日	人生は夢
	1日	ありがとう
4月	24日	患者さんが教えてくれること
	17日	てんしのよう
	10日	The Family of Man
	3日	Displacement & Zero Process
3月	27日	サイエンスそしてアート
	20日	たましいの抱擁
	13日	5年目の3・11
	6日	ウッドデッキで陽光を浴びる
2月	28日	グレンツゲビート

21日	せんせい、あとどれくらいですか
14日	こころは年とともに成長する
7日	心のセーフティーネット
1月 31日	病と詩歌
24日	ひとはぼけていないようです
17日	わたぼうし
10日	いづこの闇へ
3日	すべてがうしなわれたようにみえながら

2015

日付	タイトル
12月 27日	こどもとうそ
20日	かぼそいつなぎ (Tenuous tether)
13日	さかさま
6日	医師の生涯教育とは
11月 29日	医学にヒューマニティを
22日	在宅医療の質
15日	先生、あなたならどうしますか
8日	病いに酔うごとく
1日	だれがなってもおたがいさま
10月 25日	40箇所のタバコの焼跡を持つ少年
18日	認知症のとなり
11日	切尔ノブイリ
4日	すこしらくなりました
9月 27日	みまもり
20日	ターミナルケアはアート
13日	きょうもまた認知症
6日	Are you ready to die?
8月 30日	動物はひとを善きものにする
23日	なつやすみ
16日	貧しさこそ
9日	ぼけてゆくものの医学
2日	20歳の訪問介護
7月 26日	みるものはみられている
19日	生野菜と温野菜
12日	安全と安心
5日	オープンダイアローグへの道
6月 28日	声をうしなう
21日	往診のつゆぞら
14日	瞬間の幸福
7日	エンドオブライフケア
5月 31日	Legalizing Physician-Assisted Dying in Canada
24日	意味のある偶然
17日	蓮の花

10日	忘れるこの幸福？
3日	からだは地球に垂直に
4月 26日	マトリョーナ
19日	わたぼうしカフェ
12日	ふたつの事例（かかりつけ医の役割）
5日	やれやれ
3月 29日	元気とは
22日	天までとどけ
15日	4年目の3・11
8日	ふりかえるということ
1日	プライマリー
2月 22日	その人らしさに添うとは何か
15日	往診はアートである
8日	良いことと悪いこと
1日	アウシュヴィッツ
1月 25日	じっと耳傾けるとき
18日	whimsical art and medicine
11日	JE SUIS CHARLIE
4日	海よ

2014

日付	タイトル
12月 28日	冬休みを前にして
21日	関係中心医療
14日	自愛とは
7日	大事なものは見えない
11月 30日	独り居の豊かさ
23日	4つの風
16日	オープンダイアローグとは
9日	何が正しいと言えるか？
2日	新しい革袋に新しい酒を
10月 26日	薬 クスリ くすり
19日	亡くなったあともひとは生き続ける
12日	涸れない泉
5日	かかりつけ医と認知症
9月 28日	よき死とは
21日	「先生だってわかりませんよね」
14日	書くことの意味
7日	しどろもどろ
8月 31日	紀元前400年の老い
24日	やまぼうしの郷（さと）
17日	悪医とは
10日	ただ、毅然たれ（すぐれた医者とは？中井久夫）
3日	たったひとり
7月 27日	なぜ（子どもによる殺人事件）

	20日	腕白小僧はどこに？
	13日	開かないドアのまえで
	6日	医学と戦争のリアル
6月	29日	さいごまで生きるというシナリオを
	22日	ひとにはみな凸凹がある
	15日	閉じ込められて解き放たれて
	8日	記憶のなかの5.29
	1日	何のための認知症サポート医
5月	25日	臨床と詩学
	18日	英国の家庭医療
	11日	尊厳死法は必要か
	4日	Doorknob question
4月	27日	渡邊房吉を読む④憂き川竹の身を想う
	20日	おきなぐさ
	13日	“雑談”の効用
	6日	だれのための在宅医療
3月	30日	はるうららかなひのごごに
	23日	Reflective practitioner
	16日	地域力
	9日	3年目の3・11
	2日	父の往診
2月	23日	雪
	16日	認知症予防でなく認知症準備を
	9日	渡邊房吉を読む③ 渡邊房吉と特別秘密保護法
	2日	『驚きの介護民俗学』（六車由実）を読んで
1月	26日	渡邊房吉を読む② 雪の深夜でも嵐の早晩でも
	19日	渡邊房吉を読む①
	12日	昭和14年の渡邊房吉
	5日	トウカエデ

2013

日付	タイトル
12月 29日	老年の自己放棄
22日	ユマニチュード
15日	落葉の思想
8日	スピリチュアル
1日	認知症という山のふもとに立って
11月 24日	がんとうつ
17日	『老年症候群の診察室：超高齢社会を生きる』を読む
10日	ゼロプロセス
3日	down to earth
10月 27日	医者という仕事
20日	『動かないと人は病む：生活不活発病とは何か』を読む
13日	多職種協働interdependenceのために
6日	かかりつけ医主体の在宅医療普及のために

9月 29日	オスラーと在宅医療
22日	ウガンダの赤ちゃん
15日	認知症のひとを診る一かかりつけ医の役割
8日	7つのa
1日	医療ビジネスとかかりつけ医